

イネ縞葉枯病対策 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率及び今後の防除について

1. 検定結果

5月12日に、坂東普及センター管内の麦ほ場からヒメトビウンカ第一世代幼虫を採取し、イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率を調査しました。その結果、保毒虫率は平均で2.1%となり、昨年からやや増加(R5:2.6%、R6:1.5%)し、調査した6地点のうち坂東市岩井が最も高く5%(※1)を上回りました。引き続き、防除対策を徹底して行いましょう。

(※1) 県農業研究所のイネ縞葉枯病防除マニュアルにおいて、育苗箱施用等による薬剤防除を推奨する値。

表1 各調査地点のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率

調査地点	古河市		坂東市		五霞町 ³⁾	境町 ³⁾	平均
	総和 ²⁾	三和 ³⁾	岩井 ²⁾	猿島 ³⁾			
保毒虫率(%) ¹⁾	2.0	1.1	5.9	1.1	1.1	1.1	2.1

イネ縞葉枯病防除
マニュアル(茨城県版)

1) 簡易ELISA法により検定

【古河市(総和)及び坂東市(岩井)は県病害虫防除所調査、その他は普及センター調査】

2) 採集日: 令和7年5月12日 検定日: 令和7年5月26日 サンプル数: 各地点188頭

3) 採集日: 令和7年5月12日 検定日: 令和7年6月13日 サンプル数: 各地点94頭



2. 防除対策(本田防除)

本年はヒメトビウンカの発生時期および発生量は平年並みですが、昨年発病が多かったほ場等では、表2を参考にヒメトビウンカを対象とした本田防除を行いましょう。

表2 水稻のヒメトビウンカ防除に使用できる薬剤

薬剤名	使用方法	希釈倍数 使用量	散布液量 (L/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分		IRAC
						成分名	総使用回数	
スミチオン 乳剤	散布	1000倍	60~150	収穫21日前 まで	2回以内	MEP	3回以内 (但し、種もみへの処理は1 回以内、育苗箱散布は1回 以内、本田では2回以内)	1B
	空中散布	30倍	3					
トレボン 乳剤 (※2)	散布	1000~2000倍	60~150	収穫14日前 まで	3回以内	エトフェ ンプロッ クス	3回以内	3A
	【フームスプレーヤー】 散布	300~600倍	25					
なげこみ トレボン (※2)	水田に水溶性 容器のまま 投げ入れる。	水溶性容器10個 (500ml)/10a	—	5葉期以降 (但し、収穫21 日前まで)	3回以内	スルホキ サフロル	3回以内	4C
	散布	2000倍	60~150					
エクシード フロアブル	散布	500倍	25	収穫7日前 まで	3回以内	スルホキ サフロル	3回以内	4C
	【フームスプレーヤー】 無人航空機 による散布	16倍	0.8					

※2: トレボン乳剤となげこみトレボンは有効成分が同一であるため、合計3回までしか使用出来ません。

農薬を使用する際は、必ず使用前にラベルを見て、対象作物、希釈倍数や散布液量、使用時期、使用回数等を確認しましょう(令和7年6月11日登録確認)。農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないように注意しましょう。